

2010年3月3日

2010年の九州と、九州人を予測する。

～電通九州、『九州生活者調査 2010』調査速報～

株式会社電通九州（本社：福岡市中央区赤坂 1-16-10、資本金 4 億円、社長：山渕幸徳）は、2010 年 1 月下旬、九州 7 県に住む 20～59 歳の男女個人 2000 名を対象に「九州生活者調査 2010」を実施いたしました。（※東京・大阪でも同様の調査を各 400 サンプルで実施）

この調査は、九州の生活者に対する理解を深め、地域に根ざした効果的なマーケティング・コミュニケーション活動に役立てることを目的として、昨年から当社が年 1 回実施しており、本年が 2 年目になります。

本年は、昨今社会の耳目が集まっている政治や環境に関する意識調査、また、食生活に関する意識と実態の調査など時代性の高い質問項目を加え、また景況感の経緯や 2011 年に全線開通を控えた九州新幹線に関する調査などを昨年に引き続き行うことで、時系列での結果比較が可能になっております。

本調査の一部を分析したものとして冊子「研九白書 vol.5『速報！九州人の 2010 年』」を同封しております。当社は今後も、本調査により得られた分析や知見を「研九白書」として、定期的に発信してまいります。

主な調査結果

- 昨年引き続き、支出は引き締め。不景気は実感するも、地域格差はやや縮小か。
- 本格的な上昇はまだ先だが、若干上向き暮らし向き予想。
- 発展度の予想には地域差アリ。首都圏以外に見られる衰退意識。
- 日本は「国としては衰退する」？生活者は地域主導の発展に期待。
- 「よく知らないけれど、使ってみたい」。大阪人の九州新幹線利用に期待。
- 大切にしたいことは「家族」「健康」「収入」。不安に思うことは「生活費」や「景気」。

※詳細は次項以降のサマリーを参照。さらに詳しい内容は別添の「研九白書 Vol.5『速報！九州人の 2010 年』」をご覧ください。

[このリリースに関するお問い合わせ]

(株)電通九州 CP局 コミュニケーション・プランニング 1 部・2 部(九州生活者研究班) 和久田、熊本、佐藤

TEL: 092-713-2634

■昨年引き続き、支出は引き締め。不景気は実感するも、地域格差はやや縮小か。

1年前に比べて、ものやサービスにかかる支出を「引き締めている」「非常に引き締めている」と答えた九州人は全体の45.3%。昨年に比べ3.1%減少してはいるが、不景気を実感している生活者は依然として多いようだ。ただし県別にみると、昨年引き締め傾向が強かった県ほど今年は引き締めに意識していない。熊本においては、昨年53.6%だった引き締め傾向が、今年は41.2%まで下がっている。また、昨年は九州よりも低かった東京の引き締め意識が高くなった（昨年41.5%→今年44.6%）結果、九州と東京の差が縮んでいる。長引く不景気の波が全国に蔓延した結果、地域間格差が縮小していると言える。

→『研九白書 Vol. 5』2頁参照

■本格的な上昇はまだ先だが、若干上向き暮らし向き予想。

今後1年の暮らし向きは「変わらない」と考える層が最も多い（37.8%）。昨年もっとも多かった、暮らし向きが「悪くなっていく」と考える層は昨年53.0%→今年36.2%と減少しており、また「良くなっていく」と考える層は若干増加している（昨年16.0%→今年22.4%）。不景気からの脱却はまだ先、と思いつつも、暮らし向きの悪化は底を打ったと感じている生活者が増えているようだ。

→『研九白書 Vol. 5』2頁参照

■発展度の予想には地域差アリ。首都圏以外に見られる衰退意識。

「現在居住している都道府県の発展度予想」を各県の生活者に対して聞いたところ、「発展する」と予想している生活者は、福岡県（28.0%）、熊本県（26.4%）、鹿児島県（24.8%）の3県で比較的多かった。2011年全線開通する九州新幹線の沿線地域ということで、少なからず県民意識に影響を与えているものと思われる。九州、首都圏、関西圏というエリアで発展度予想を尋ねるとあまり地域差がないが、「衰退する」との予想は首都圏（18.0%）よりも九州（29.9%）、関西圏（27.0%）のほうが高く出ている。

→『研九白書 Vol. 5』3頁参照

■日本は「国としては衰退する」？生活者は地域主導の発展に期待。

日本の「国としての」発展度予想を尋ねると、九州、東京、大阪の3地域で大差なく50%以上の生活者が「衰退する」と予想。政治に関する意識項目では「今の不景気は政治が原因だと思う（44.1%）」「選挙の時、必ず投票に行くようにしている（55.9%）」など、政治への興味・関心はありながらも「日本の政治に期待している（18.1%）」と、期待感が非常に薄い傾向が見られた。まず国としての発展ありきではなく、地域、企業、個人単位での発展や新しい提案が、大きな社会を救う原動力となるのかもしれない。

→『研九白書 Vol. 5』3頁参照

■「よく知らないけれど、使ってみたい」。大阪人の九州新幹線利用に期待。

全線開通を来年に控えた九州新幹線の利用意向は、鹿児島県がもっとも高く（78.0%）、沿線の他2県でも高い利用意向が見られた（福岡県59.0%、熊本県57.2%）。また、2011年以降乗り換えなしで鹿児島へつながる大阪の生活者は、3人に1人が「九州新幹線を知らない」と答えるも、情報を伝えた上での利用意向は九州の他県よりも高い（41.3%）。潜在的な利用ニーズの高さが窺える。

→『研九白書 Vol. 5』4頁参照

■大切にしたいことは「家族」「健康」「収入」。不安に思うことは「生活費」や「景気」。

それぞれに「大切にしたいこと」と「不安に思うこと」を尋ねた。大切にしたいことのトップは「家族との良好な関係」であり、全体の7割を占める。続いて、「健康」や「収入」などが地域差はあまりなく並んでいる。不安に思うことは「収入や生活費」「景気の悪化」「仕事」「老後」など、今の世相を反映している言葉が目立ち、これらにも地域差はあまり感じられなかった。

【大切にしたいこと】

九州(n=2000)

家族との良好な関係	72.9%
健康の維持・増進	53.2%
収入の維持・増加	51.5%
友人との良好な関係	48.5%
貯蓄や資産の形成	47.4%

東京(n=400)

家族との良好な関係	69.8%
収入の維持・増加	55.3%
健康の維持・増進	53.8%
貯蓄や資産の形成	48.5%
友人との良好な関係	47.3%

【不安に思うこと】

九州(n=2000)

収入や生活費	63.7%
景気の悪化	59.1%
自分の老後の生活	39.6%
自分や家族の仕事	37.5%
自分や家族の健康	33.4%

東京(n=400)

収入や生活費	63.8%
景気の悪化	55.3%
自分や家族の仕事	39.3%
自分の老後の生活	35.5%
将来に対する漠然とした不安	34.8%

電通九州「九州生活者調査 2010」調査概要

調査地域：九州全域（福岡県・佐賀県・長崎県・大分県・熊本県・宮崎県・鹿児島県）
および、東京都、大阪府

調査対象：20～59歳の男女個人

サンプル数：九州計 2000 サンプル
（福岡県 500 サンプル、福岡県以外の九州各県各 250 サンプル）
東京都 400 サンプル 大阪府 400 サンプル

調査方法：インターネット調査（㈱電通リサーチ『ミリオネット』）

調査期間：2010年1月27日（水）～1月31日（日）

調査機関：㈱電通リサーチ

集計について：九州全体の傾向を把握するにあたっては、ウエイトバック集計を行っています。
ウエイトバック集計とは、回収された調査データを母集団の実際の構成比に合わせてデータに重み付けして集計することをいいます。
本調査では、「九州計」の数値について、九州各県の性年代の人口構成比に合わせた重み付けをしています。